

運動好きの子どもを増やすには



POINT
1

子どもが**運動・スポーツに**触れる機会を増やす

POINT
2

親が**子どもの発達や**青少年スポーツに関する**知識・態度**を身につける

家庭の社会的状況



世帯収入



オーガナイズド・スポーツ[※]への参加

※学校・地域のスポーツクラブやスクール、少年団など、指導者のもとで行う活動や習い事

親の知識・態度

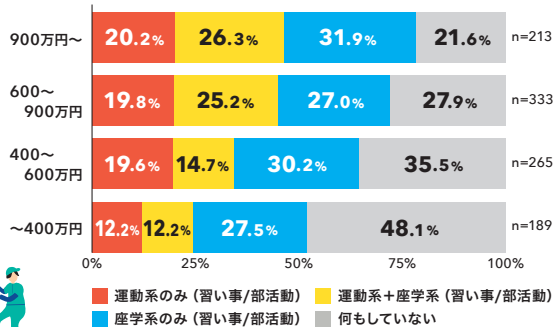


子どもの発達や青少年スポーツに関する正しい知識・態度



日常生活の決まりごと
子育て上の価値観

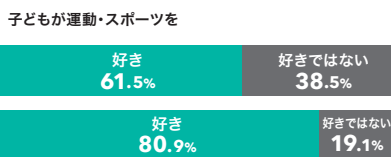
世帯収入の低い家庭では身体を動かす習い事や運動部活動にお金を割くことが難しい



スポーツに触れる・教わる機会が少ない子どものスポーツ好きの割合は低い

子どもがオーガナイズド・スポーツを

していない
している



親が子どもの発達や青少年スポーツに関する正しい知識を持っている場合

運動好きの子どもが
17%多い注2)

子どもの運動好きを伸ばす親の知識・態度

- 家族でその日あったことについて話をする
- 親の意見を言う前に、子どもの意見を聞いている
- 子どもの挑戦や努力をほめることを心がけている
- 親子でいろいろなことを一緒にしたり、見たりするようになっている
- 子どもと一緒に遊ぶ友達の数や名前を知っている
- 子どもの成長や、運動の様子を観察している
- 子どもの基礎的な身体の動きは、良い指導で伸ばすことができるを知っている
- 幼児期には多様な動きの発達が大切であることを理解している

日本レクリエーション協会 おやこ元気アップ!事業・日本スポーツ協会アクティブ・チャイルド・プログラムを参考に、筆者で作成

親が子どもの発達やスポーツに関する知識・態度を養えば、子どもの生涯にわたる心身の健康・幸福のことも考え、楽しみながら運動に親しむ機会を増やす工夫をするようになる

地域のアクターや行政の役割

1. 親子にとって**金銭面、時間面、精神面**での負担の少ない**スポーツ参加**の受け皿作り

(親の送迎や当番不要、参加費の都度払い、気軽な体験参加OK、などの工夫を)

2. **子どもの発達や青少年スポーツ**に関する親の**知識・態度**を養うような取り組みの推進

注1: 図内の矢印が引かれている項目間の関係の強さの検討のため、共分散構造分析を用いた。(GFI=0.955, AGFI=0.941, RMSEA=0.046)

注2: 傾向スコア(DR法)を用いた分析結果。交絡要因には、子の年齢、親のスポーツ経験、世帯年収、運動系の部活動・習い事の有無、親のスポーツ好き嫌い、日常の決まりごと・子育て上の価値観を選択した。

子どもが生涯にわたる運動習慣を獲得するためには、**身体を動かすことと同時に、スポーツや健康に関する知識や感情、スポーツを通じた人や社会との関わり**の4つの領域からなる「**フィジカルリテラシー**」を身につけることが必要です。

「フィジカルリテラシー」という概念は、第3期スポーツ基本計画にも取り入れられました。*詳しくは以下の調査を参照。

JSC子どものフィジカルリテラシー習得に関する家庭環境調査(2022年)について

【実施時期】 2022年3月14日(月)~16日(水)

【主な質問項目】 家庭生活や子育てについて(Q1~Q11) / 子どもの習い事について(Q12~Q16) / 子どもの運動やスポーツについて(Q17~Q31) / 親の運動やスポーツについて(Q32~Q39) / スクリーニング(SC1~SC9)

【属性】 回答者: 5-15歳の同居する子どもを持つ、全国の男女各500人(合計1,000名) 平均年齢 49.0歳

【質問詳細】 質問一覧、並びに単純集計表(GT表)は右のQRコードよりダウンロードできます

【実施主体】 独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC) 情報・国際部

質問表



単純集計表(GT表)



JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター

(作成) 独立行政法人日本スポーツ振興センター
<https://www.jpnsport.go.jp/>